

<鳥取県の現状と目指す姿について>

問 11 鳥取県に暮らしていて、あなたは今どの程度「幸せ」ですか。

～5「普通」から10「とても幸せ」が約8割～

幸福度について10点満点で質問したところ、5「普通」が27.8%と最も高く、「7」が18.8%、「8」が16.4%、「6」が12.7%と続き、「5普通」以上と回答した割合は84.5%となっている。

図37 鳥取県に暮らしていて、「幸せ」ですか(n=1,500)

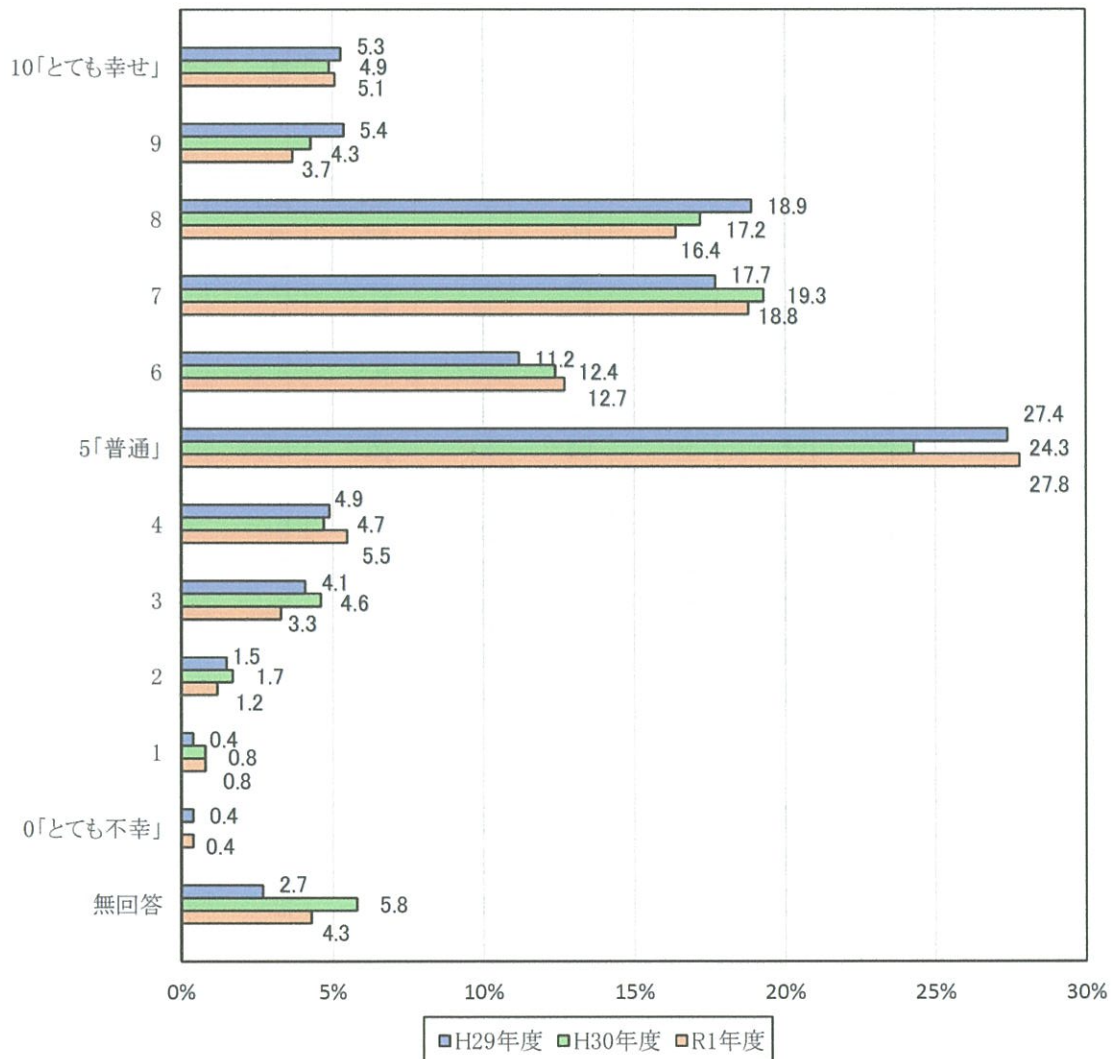
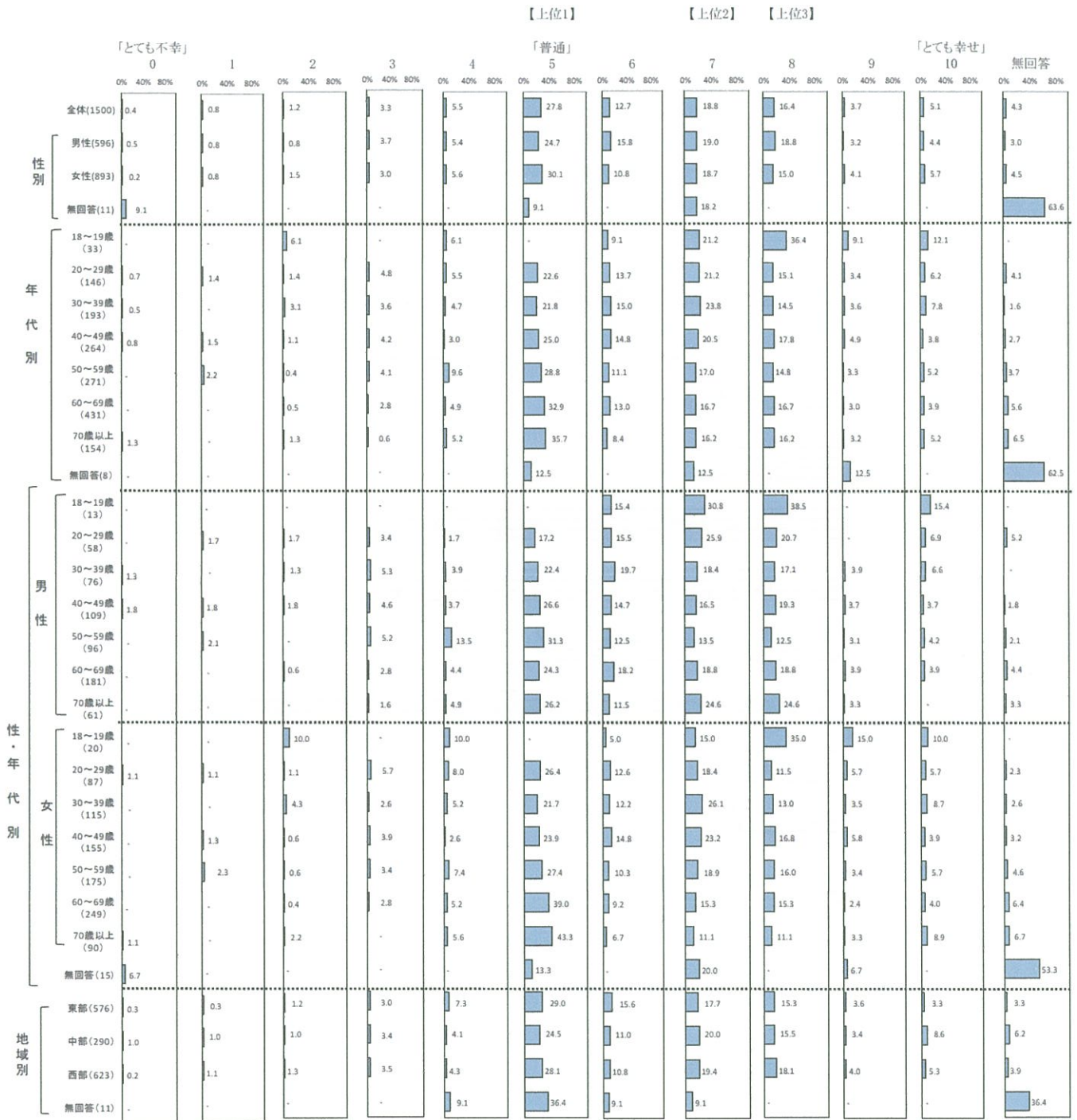


図 38 鳥取県に暮らして、「幸せ」ですか



問12 あなたの「幸福度」を判断するとき、あなたが重視することはなんですか。

(〇はいくつでも)

～「家計の状況」「自身の健康の状況」が6割以上～

幸福度を判断するとき重視することは、「家計の状況」が68.3%と最も多く、次いで「自身の健康の状況」が66.5%、「家族関係」が53.6%となっている。

同じ問いを調査した平成29年度-令和元年度を比較してみると、上位3項は常に「家計の状況」「自身の健康状況」「家族関係」となっている。また、「家計の状況」「自然環境(住みやすさ)」「自由な時間(充実した余暇)」「職場(学校)の人間関係」は年度毎に増加している。

年代別でみると、「家計の状況」「家族関係」は30～50歳代で割合が高く、「自身の健康の状況」は40歳代から70歳以上にかけて割合が高くなっている。「自由な時間(充実した余暇)」「仕事(学校)の充実度」「精神的なゆとり」「職場(学校)の人間関係」は20～30歳代で割合が高くなっている。

図39 「幸福度」の判断で重視することは(n=1,500)

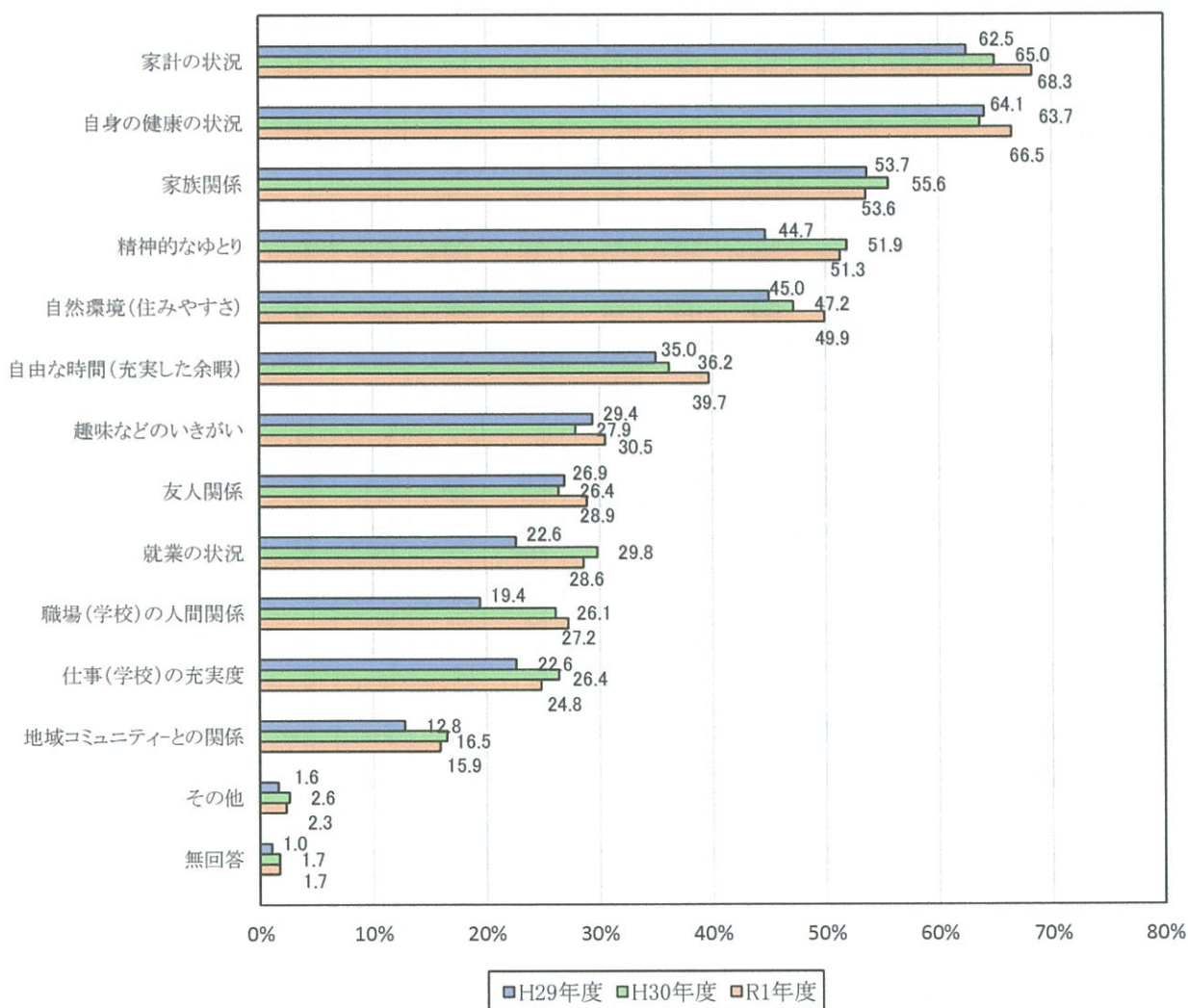
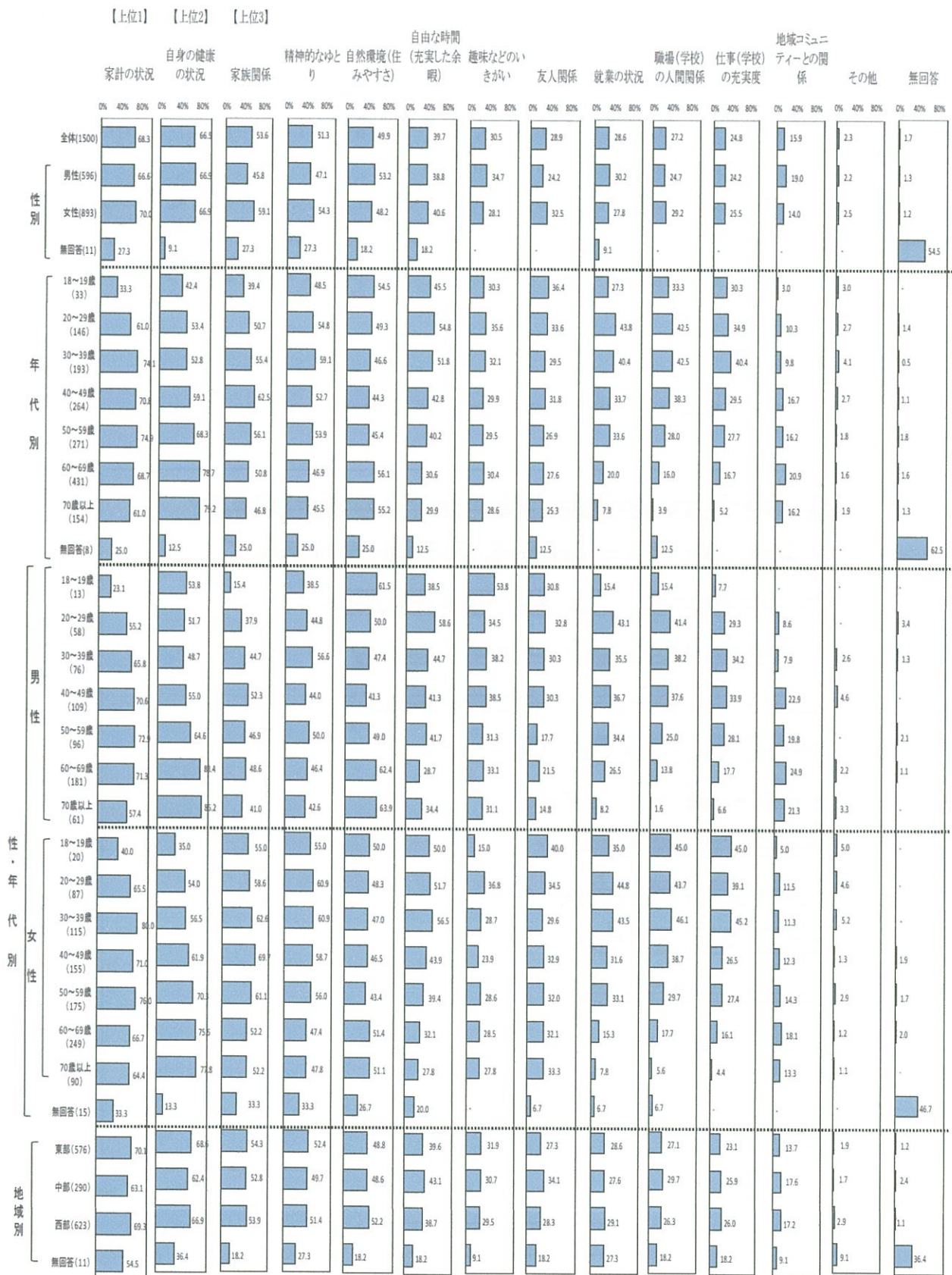


図 40 「幸福度」の判断で重視すること



問 13 他の都道府県と比べた鳥取県の強みや良さは何だと思えますか。(○は1つ)

～「自然環境に恵まれている」が約5割～

他の都道府県と比べた鳥取県の強みや良さについて、「自然環境に恵まれている」が50.9%と突出しており、次いで「人との絆・地域の結びつきが強い」が6.3%、「防災・治安への安心感」が5.3%となっている。

一方、「他の都道府県と比べて鳥取の強みや良さがあるとは感じていない」は10.8%となっている。

図41 他の都道府県と比べた鳥取県の強みや良さ(n=1,500)

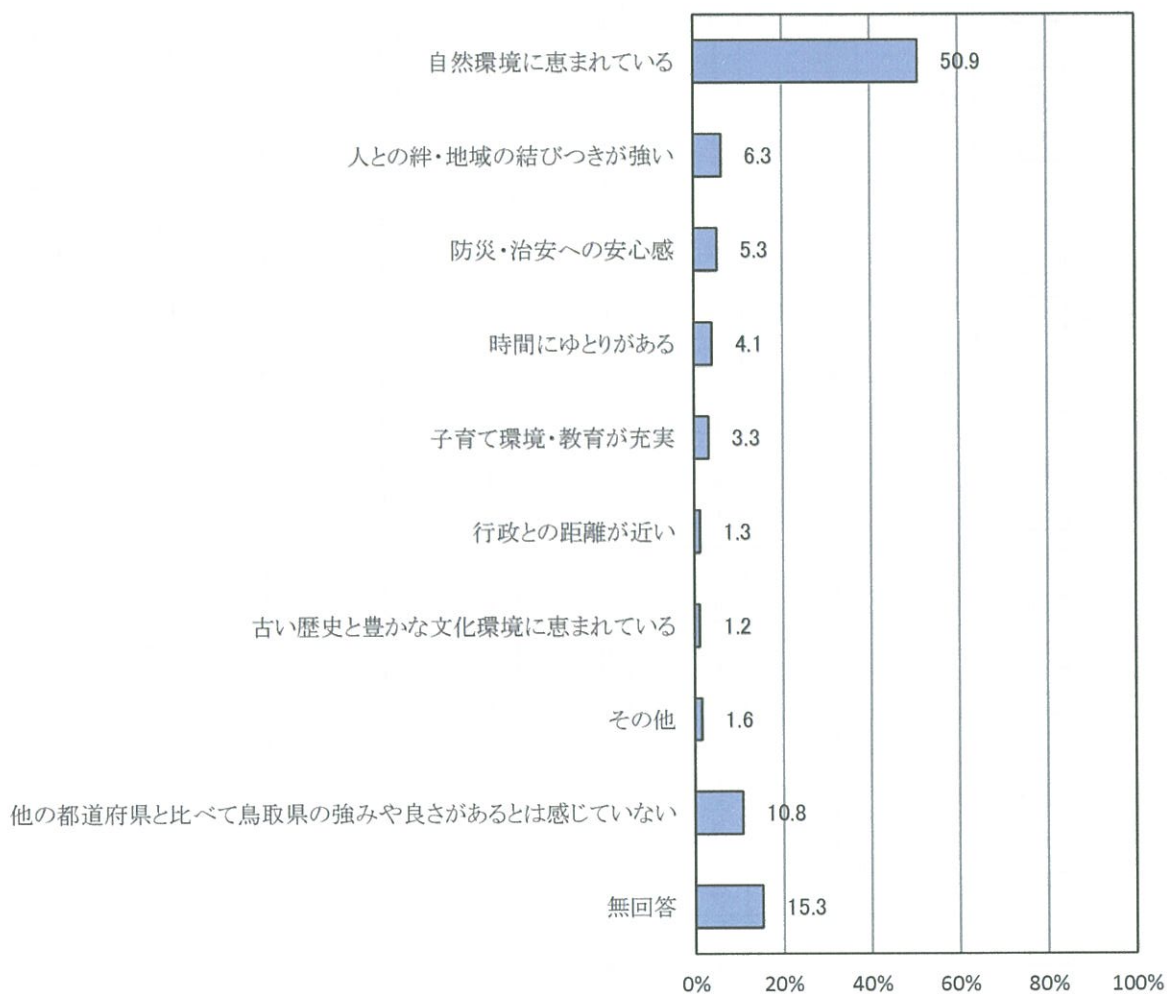
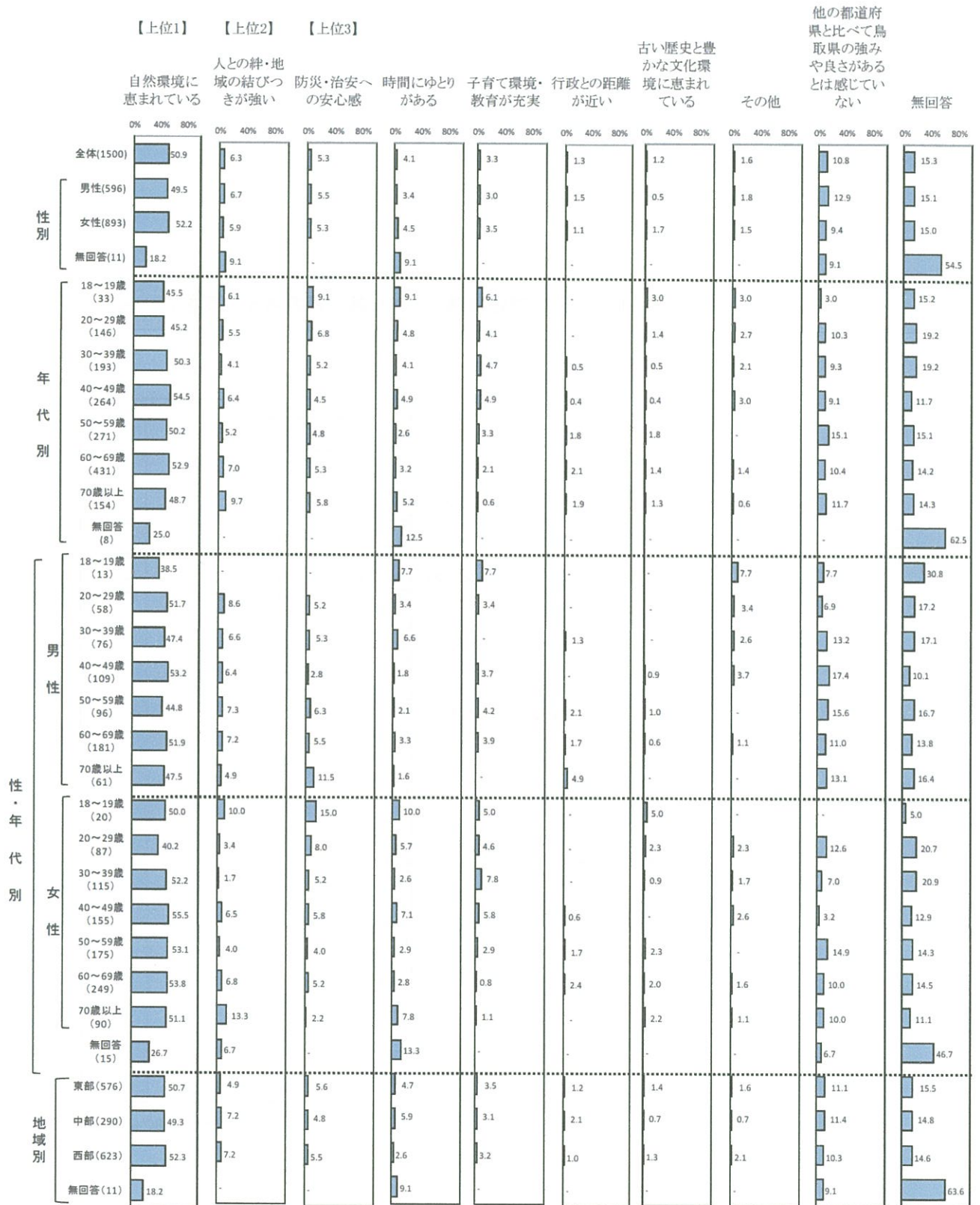


図 42 他の都道府県と比べた鳥取県の強みや良さ



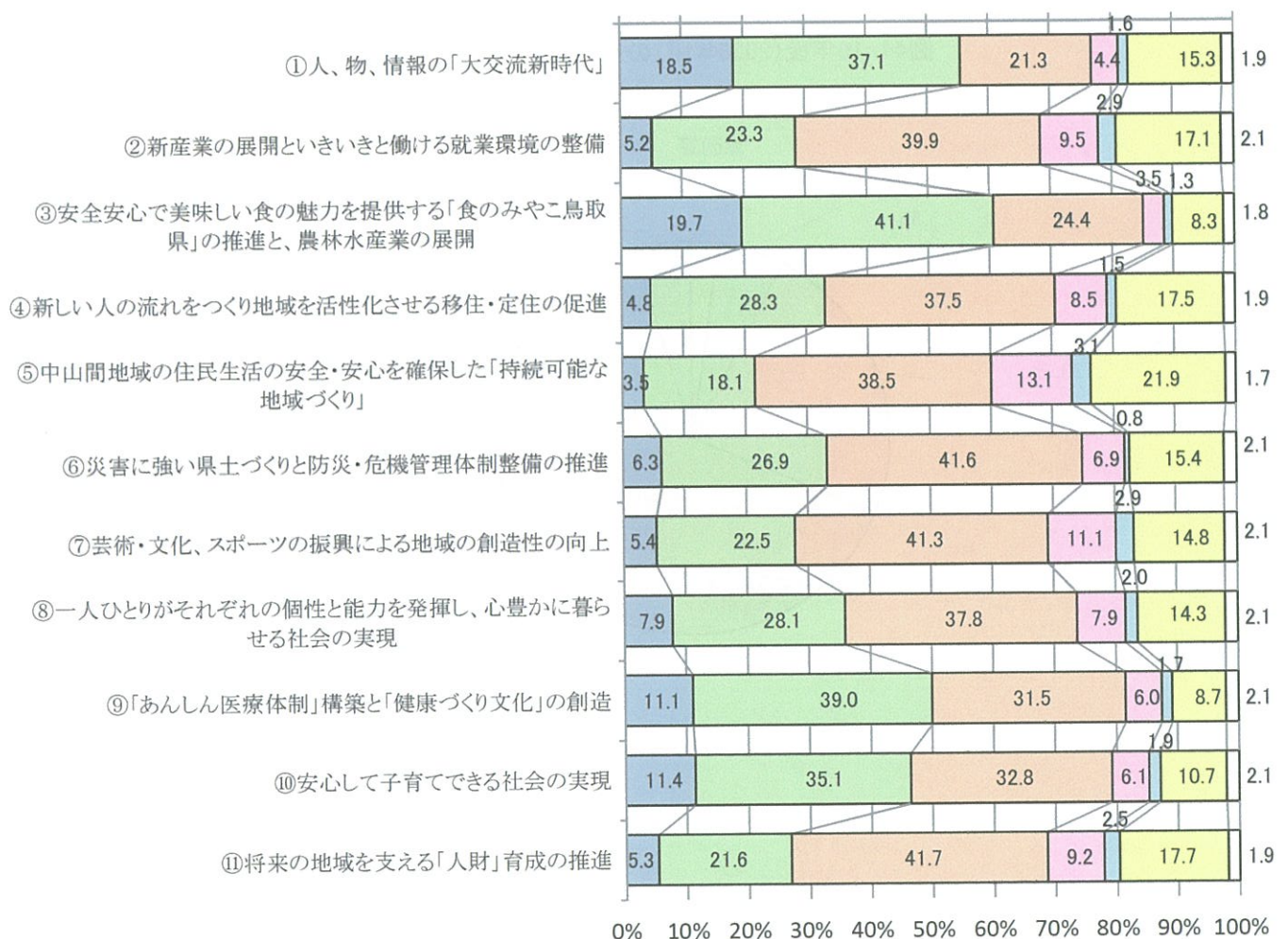
問 14 県が概ね 10 年の間に取り組んできた次の事項(施策の柱)について、あなたはどのように評価しますか。
それぞれ5段階で回答をお願いします。

～「安全安心で美味しい食の魅力を提供する「食のみやこ鳥取県」の推進と、農林水産業の展開」「人、物、情報の「大交流新時代」」「あんしん医療体制」構築と「健康づくり文化」の創造」が上位～

県が概ね 10 年の間に取り組んできた事項(施策の柱)の評価について、「評価する」と「やや評価する」を合わせた割合は、「安全安心で美味しい食の魅力を提供する「食のみやこ鳥取県」の推進と、農林水産業の展開」が 60.8%、「人、物、情報の「大交流新時代」」が 55.6%、「あんしん医療体制」構築と「健康づくり文化」の創造」が 50.1%と 5 割を上回っている。

一方、「評価する」と「やや評価する」を合わせた割合が低いのは、「中山間地域の住民生活の安全・安心を確保した「持続可能な地域づくり」」が 21.6%、「将来の地域を支える「人財」育成の推進」が 26.9%、「芸術・文化、スポーツの振興による地域の創造性の向上」が 27.9%と 3 割を下回っている。

図43 県の取組への評価(n=1,500)



評価する(取組は十分である、よくやっている) やや評価する
 普通(どちらともいえない) やや評価しない
 評価しない(取組は不十分である、努力する必要がある) よくわからない
 無回答

問 15 概ね10年後(2030年頃)の鳥取県の将来は、現在と比べて明るいと思いますか。
(○は1つ)

～「わからない」が最も多い～

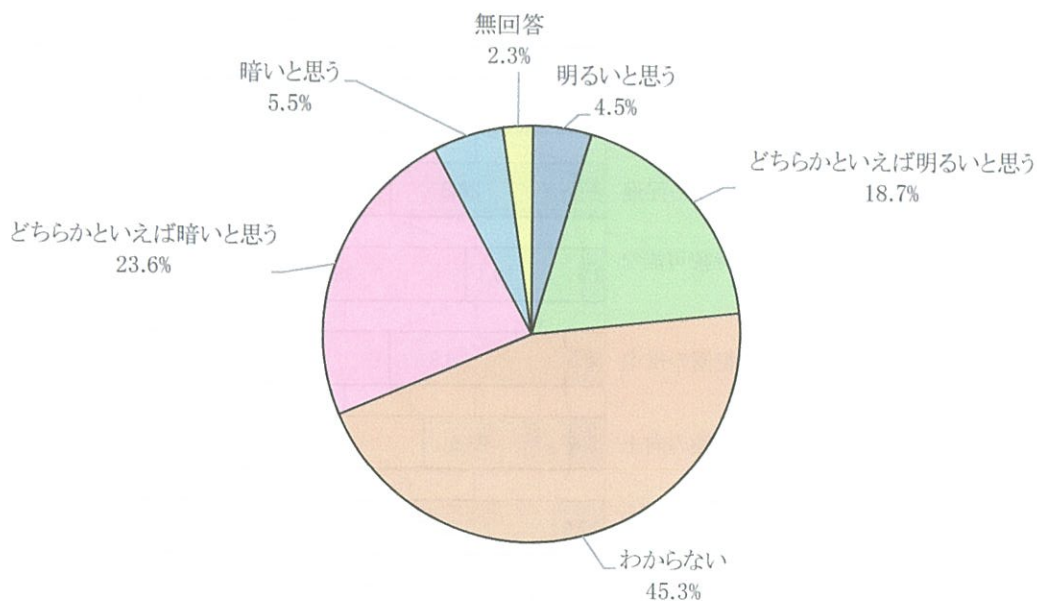
概ね10年後(2030年頃)の鳥取県の将来は、現在と比べて明るいと思うかについて、「わからない」が45.3%と最も割合が高く、次いで「どちらかといえば暗い」が23.6%、「どちらかといえば明るい」が18.7%となっている。

年代別でみると、「明るい」、「どちらかといえば明るい」を合わせた割合は、概ね年代が若い程高くなっている。20歳代では「明るい」「どちらかといえば明るい」が「暗い」「どちらかといえば暗い」を上回るが、30歳代以上では「暗い」「どちらかといえば暗い」が上回る。

性別でみると、男性は「暗い」「どちらかといえば暗い」を合わせた割合が概ね3～4割と高いのに対して、女性は概ね2割台と低い。

地域別でみると、「明るい」、「どちらかといえば明るい」を合わせた割合は、西部地区が他の地域と比べ高くなっている。

図44 10年後(2030年頃)の鳥取県の将来 (n=1,500)



問 16 問 15 で、その選択肢を選んだ理由について教えてください。【巻末「自由意見」に掲載】

問 17 概ね 10 年後(2030 年頃)を見据えたとき、鳥取県の将来について、どのような姿を目指していくことが望ましいと思いますか。(〇は1つ)

～「希望する働き方や子育て、健康や生きがいなど、県民の生活の質の向上」
「豊かな自然を活かしたゆとり・ぬくもりのある暮らしの推進」が上位～

概ね 10 年後(2030 年頃)を見据えたとき、鳥取県の将来について、どのような姿を目指していくことが望ましいかについては、「希望する働き方や子育て、健康や生きがいなど、県民の生活の質の向上」が 34.3%、次いで「豊かな自然を活かしたゆとり・ぬくもりのある暮らしの推進」が 21.5%、「災害に強い県土づくりと防災・危機管理体制整備の推進」が 9.1%となっている。

性別で見ると、「豊かな自然を活かしたゆとり・ぬくもりのある暮らしの推進」「AI や IoT、ロボットなどの技術革新等による経済的成長・発展」は男性の割合が高くなっている。一方で、「希望する働き方や子育て、健康や生きがいなど、県民の生活の質の向上」「災害に強い県土づくりと防災・危機管理体制整備の推進」は女性の割合が高くなっている。

図46 10年後、鳥取県の目指す姿 (n=1,500)

